

誠・愛・勇

山田小学校だより

【学校教育目標】「やさしく」「かしこく」「たくましく」
2025. 6. 26 文責:校長 村川 司麻
平戸市立山田小学校(平戸市生月町山田免 511)
TEL0950(22)9243/FAX0950(53)1004
<https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/school/yamada>

地域の方々に支えられて



5月30日(金)、昼休みに図書ボランティア「話・花」の方々にご来校いただき、「金の斧と銀の斧、たくさんの斧」の背景からすべて手作りのパネルシアターをしていただきました。子どもたちも物語の世界に引き込まれ、心の栄養をたくさんいただきました。

6月10日(火)からは、B&G 海洋センターで全校児童のプール学習が始まっています。今年度は、来年度生月小学校との統合もあり、低・中・高学年に分かれての交流授業を実施しております。学校の教諭に加え、センターの方にも専門的なご指導をいただき、子どもたちは、1回1回の学習で上達し、その達成感に喜びの笑顔が広がっています。また、両校の子どもたちの会話も増え、ますます交流が深まってきているようです。



6月20日(金)1・2年生が町探検に出かけました。「岩野上醤油店」「大気圏」「ふれあい広場のおみやげ屋さん」にお世話になりました。子どもたちは、直接町の様子に触れる中で、地域の店や施設、物などが自分の生活と関わっていることを学びます。見たり、聞いたりすることで、学習を深めているようです。また、これからの見学学習にも意欲が高まっていました。

いろいろな体験活動を通して、子どもたちは大きく成長していきます。また、地域との関わりをもった学習を重ねることで『生月』の良さを知り、故郷『生月』を愛する気持ちを育てることができればと思います。閉校を控え、今年度は特に身近な地域の方々との触れ合いも大切にしたいと考えております。常日頃から、子どもたちに温かい目をかけ、声をかけて、地域ぐるみで育てていただきありがとうございます。今後も、多くの地域の皆様や施設にお世話になります。御支援御協力をよろしくお願いいたします。

少年の主張大会

6月8日(日)、少年の主張大会が平戸市の文化センターで行われました。本校を代表して6年生の松永明日華さんが出場しました。『いつか活躍する場所～ふるさとで輝くために』と題して、人口減少にある平戸市に対して、人口を増やし、町を元気づける意見を立派に発表することができました。作文を何度も練り直し、発表の練習を繰り返し頑張りました。当日は、力強い声で、分かりやすく、堂々とした態度で発表ができ、とても素晴らしかったです。

※作文については、裏面に掲載しております。



7月行事

- 6月30日～長崎っ子の心を見つめる教育週間(～8日)
全校朝会(校長講話)
1日(月)少年の日(6年、吉川瑠夏さん発表)
3日(木)地区懇談会 13:00 授業参観 13:20
学級懇談会 14:15 学校保健員会 15:10
4日(金)臨海学校説明会(4～6年)
8日(火)縦割り遊び
9日(水)食育指導(3～6年)
10日(木)全校集会(メアリー先生とのお別れの式)
11日(金)昼読み
18日(金)終業式
20日(日)家庭の日
21日(月)海の日
22日(火)夏休み(～8月31日)
22日(月)個人面談(～23日)

「いつか活躍する場所～ふるさとで輝くために～」

6年 松永 明日華

みなさんは、平戸市についてどのくらい知っていますか？平戸市は、美しい海と豊かな自然に囲まれた町です。歴史も深く、海外と交流があった場所としても有名です。しかし、今、平戸市は深刻な問題を抱えています。それは「人口減少問題」です。

昨年、私の家族に新しい命が誕生しました。弟が生まれたのです。家族が増えたことはとても嬉しく、毎日がにぎやかになりました。でも、ふと考えてみると、私の周りでは、子どもが減っていることを感じます。実際に学校の新生は年々少なくなっています。そして、私の学校は今年で閉校することも決まりました。

私はこのままふるさと平戸市の人口が減り続けるのは嫌です。私たちにもできることは何かないでしょうか？

私が考えたことは、自分の町の魅力を発信することです。私の町の自然や歴史を、もっと多くの人に知ってもらおうのです。生月町には新鮮な魚、美しい景色など、たくさんの魅力的なものがあります。私は生月町の景色は日本一だと思います。この良さを知ってもらえれば、移住する人が増えるかもしれません。実際に漁業や自然の豊かさに魅力を感じ、東京都や香川県から移住してきた人もいます。

情報を発信するためには、私たちが地域のことをもっと知らないといけません。私は総合的な学習の時間に、生月町の観光客数を調べてみました。令和4年度、生月町には約11万人が訪れましたが、そのうち、宿泊した人は何人だったと思いますか？宿泊客は、たったの4千人で、全体の3.7%ほどです。多くの人が生月町を訪れているのに、短時間の滞在では生月町の良さを知ってもらえません。実際に観光客に話を聞いてみると、「ホテルがあるといいのだけど…」という意見もありました。しかし、現実的にはホテルを建てることは難しいと思います。そのため、生月の町に観光客を増やそうと、灯台マルシェやシーラブフェスタなど、工夫を凝らしたイベントも開催されています。私は今まで参加する方でしたが、イベントを企画することもできるかもしれません。例えば、夕日鑑賞会やナイトウォークなど、小学生の目線でも意見をだせます。今年の夏休みに学校のレクリエーションがあるので、まずは、自分たちで生月町のよさを味わう、夕日鑑賞会を計画しようと思います。こうやって、アイデアを出し合うことが、故郷を元気づけるきっかけになるかもしれません。

私の将来の夢は看護師です。残念ながら、平戸市の進学先、就職先は限られているのが現状です。夢を実現させるためには、私自身、いつか平戸市を離れ、学び、経験を積むことが必要になるかもしれません。だけど、立派な看護師になって、平戸市に戻り、ふるさとのために活躍する。そういう気持ちを持ち、今から自分にできることを考えていきたいです。

人口減少は簡単に解決できる問題ではありません。私たちにもできることは小さなことです。しかし、その小さな力が集まれば、大きな力になるはずです。「私は大好きな家族と、これからも平戸市で暮らしていきたい。」

みなさんも、自分の町について考えてみませんか。自分のふるさとを大切にする気持ちが、日本中の町を元気にする第一歩になるはずです。